



矢木地区は、子どもたちに素晴らしい環境をプレゼン

かんきょう矢木

第185号

令和3年
9月1日

発行

矢木地区環境
保全推進委員会
委員長 出村晃一

矢木地区環境保全もオリンピックに一役か

7月23日に開幕した(一部競技は開会式に先駆けてスタート)第32回夏季オリンピック東京大会は、33競技339種目において熱戦が繰り広げられ、8月8日に国立競技場で閉会式、17日間の日程に幕を下ろしました。結果は、日本勢のメダルは過去最多となり、同時にたくさんの新しいヒーローが生まれました。その中でも特に10代のメダリストが目立ち、3年後のパリ大会が楽しみです。

開催までの道のりは決して平坦なものではありませんでした。2011年、石原慎太郎元都知事が東日本大震災の復興を理念に掲げオリンピック招致を表明し、2013年のIOC総会で開催地に東京が決定。みなさんも当時のことが思い出されると思います。ジャック・ロゲ元IOC会長が開催都市を「TOKYO」と発表したシーン(発音をお聞かせできないのが残念)、またプレゼンでの滝川クリステルが披露した「お・も・て・な・し」も注目を集め、その年の流行語大賞にもなりました。



でも、その後開催までにはいろいろな試練(?)、盗作問題や新型コロナウイルスによる延期、性差別騒動等・・・に立ち向かい、なんとかなんとかなんとか開幕までこぎつけた思いがあります。しかし、ふたを開けてみればそこには感動の嵐が待っていました。確かにメダルの量産もすごいのですが、インタビューでどのアスリートも「開催してもらったことへの感謝の言葉」が、表彰台に立つ喜びよりも前面に出ていたこと、これに私は一番感動したのです。

どんな環境で育ったらこんなアスリートたちが誕生するのかな? 子どもの頃の環境が大切なんでしょうね。「環境」といえば、矢木もみんな子どもたちの未来を応援しています。矢木地区は子どもたちに素晴らしい環境をプレゼントしています。そんな環境の下だから、矢木からも「パリ大会」の次「ロサンゼルス大会」にはオリンピック選手が誕生するかも。(少しこじつけに無理があるかもしれませんが・・・) 2028年か・・・。よ～し、まだまだ頑張るぞ。(矢木地区自治会 事務局次長 安念勝美)



8月1日(日)に共同墓地周辺の除草や「ロードガーデン矢木」の除草、「矢木のこみち(ビオトープ)」の除草・整備を常任委員で行いました。この日は暑い日で、大変な作業でした。

活動報告しま～す 常任委員より



「環境へのおもい」を絵と標語で表現した38点の応募作品。8月11日の常任委員会にて厳正なる審査が行われました。8月24日太子堂祭りで表彰式がありました。



(宮崎博好)



先日、勤務先の軒先になんとスズメバチの巣を発見。大量のスプレーを噴射した後、棒で叩き落として無事に駆除に成功。猛暑の年はスズメバチが大量発生するといわれています。気をつけよまいけ。(5班 石井義史)



第15回 矢木地区環境ポスターコンクール



【最優秀賞】

6年 島 ころ

【優秀賞】

1年 番留葵
3年 高橋美乃梨
5年 林友葵

【自治会長賞】

6年 金森 梨亜

【佳作】

1年 島 誠人
1年 那須太智
1年 吉田由依
2年 池田幸緒
2年 根尾優花
3年 扇澤 颯太
3年 坂本優愛
3年 根尾剛実
5年 前田唯桜
6年 坂本美優
6年 山本悠景

【努力賞】

1年 島田芽依
1年 岩崎心
1年 大木隆之
2年 城崎龍生
2年 高橋歩乃
2年 牟田陽臣
2年 米林 絢音
3年 那須友美
3年 畑陽向
3年 花島凛
3年 山崎 ひなの
4年 岩崎ま愛
4年 大木陽葵
4年 前田琉愛
5年 島田 潘
5年 須田 結月
5年 惣田 佳樹
5年 得永 玲奈
5年 番留大翔
5年 牟田涼音
5年 山崎 聖斗
6年 京谷 恵太朗

応募者38名の作品
(順不同ランダム表示)